

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	・運営推進会議を活かした取り組みの中で情報の共有が不十分で、意見をサービス向上に活かせてない部分がある	地域運営推進会議の構成員及び家族の方に、情報を発信し意見を聞きサービスの中に活かしていく。	・会議に欠席された方には、議事録を送付し会議の内容を把握していただく。また、前もって欠席表明された方には事前に意見をもとめ、その会議の議事録を送付し確認していただく。	1ヶ月
2	35 (17)	・災害対策面で、地域との協力支援体制が希薄と思われる ・事業所の所在地の状況を把握するためにハザードマップの整備と、具体的な避難行動を取るための、非常災害対策計画の作成および訓練計画の実施が望まれる。	・災害時の対策計画の作成および訓練計画の充実 ・地域の各団体と交流を持ってみのり内部の様子を把握していただき、災害時における対応の協力支援体制を充実させる。	・各自治体団体(例:婦人会、民生委員等)との交流の場を開催し理解を深めていく ・消防計画や緊急対応マニュアルの見直しに合わせ自然災害計画を作成し職員への周知徹底を行なう。また自主防衛訓練の実施や地域住民への災害時協力体制を確保する事で、ご利用者や職員自身の安全確保が出来るように取り組む。	12ヶ月
3	6 (5)	・身体拘束をしないケアの実践 ・身体拘束に関する勉強会を積極的に行ない拘束しないケアの実践に取り組んでいるが、徹底されていない部分がある	・内外研修を有意義に活用したチームケアで身体拘束をしないケアに努める	・職員の知識、技術を把握し個々に合った法人内外への研修の受講の機会を確保する。 ・身体拘束の内容を理解できるような、勉強会を定期的を開催する。 ・身体拘束をせざるを得ないケースについては(切迫性、非代替性、一時的)の3つの要件を満たした上で、家族にも状況説明を行なっているが、さらに職員にも理解できるチェック表を作成し、そして統計をとり、拘束をしないケアの実践を行なう為に、月1回の検討会を持つ。	12ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。